

研究主題

「新しい時代に求められる資質・能力の育成を目指して」

「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指した国語授業の追求

— 「読むこと」の指導を中心として —

北本市立北小学校

## 1 主題設定の理由

《社会や国の動向から》

グローバル化の進展や人工知能技術をはじめとする技術革新などにより、社会構造が大きく、また急速に変化してきている。予測困難な時代の中で、学校教育には、子どもたちが様々な変化に積極的に向き合い、他者と協働して課題を解決していくことや、様々な情報を見極め知識の概念的な理解を実現し情報を再構成するなどして、新たな価値を創造していく力を育てることが求められている。人口知能（AI）がどれだけ進化し、思考できるようになったとしても、その思考の目的を与えたり、目的のよさ・正しさ・美しさを判断したりできるのは人間の最も大きな強みである。

このような社会的背景を受けて、主体的・対話的な学習を通して、教材文を正しく読み、その教材に込められた作者の思いや意図について「自分はどう思うか」という自分の考えを形成する力を付けることは、これからの社会を生きる児童にとって、価値があると考えられる。

《本校の課題》 ～R2年度埼玉県学力・学習状況調査より～

記述式	埼玉県	本校	比較
第4学年	31.3	18.3	-13.0
第5学年	22.1	21.7	-0.4
第6学年	41.0	31.7	-9.3

4・6学年では平均より大きく下回る！

埼玉県学力・学習状況調査の結果から分かるように、本校の児童は記述式の問題の正答率が極端に低い。その要因として、文章を正しく読み取れず、内容を理解・整理できていないため、考えを記述することができないと考えられる。また、日常の授業をしていても、文章を読むことへの抵抗感を示す児童も多く、読書嫌いな児童も多い実態がある。

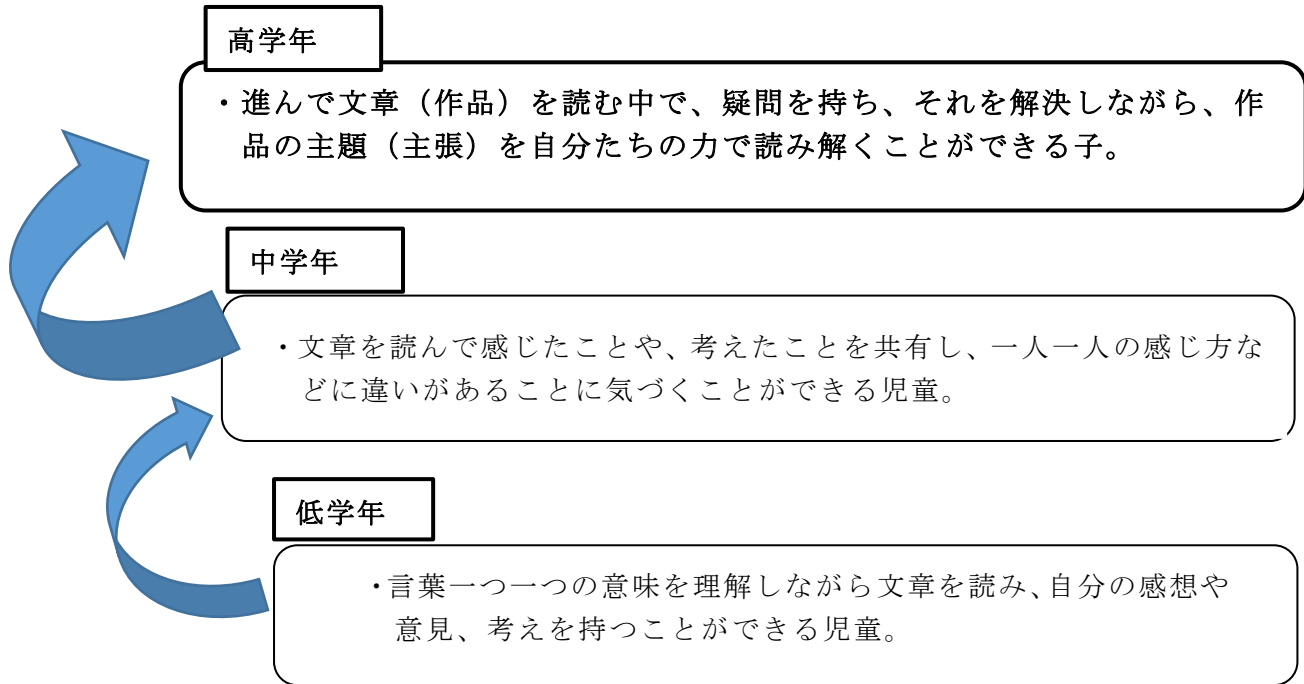
これらの課題を解決していくためには、文章を読むことへの面白さや楽しさを感じ、自ら進んで多くの文章に触れていくことが大切である。そして、他者との対話を通しながら、考えを交流していくことで、読みの力を高めていくことができると考える。

## 2 研究概要

### (1) 小学校卒業時に目指す児童像

・多様な文章や考え方に触れ、読むことの面白さや楽しさを感じながら、文章に込められた主題を読み取り、自分の考えを深めることができる児童。

## (2) 各発達段階で目指す児童像



## 3 具体的な取組み

### (1) 埼玉大学附属小学校オンライン授業研究会の参加

校内研修の一環として、第5学年・第6学年の説明文を扱った研究授業会に参加。文章を推敲させていく過程や、対話を通して他者と交流し、考えを広げていく手法について学ぶことができた。また、ICTを利用した先駆的な授業展開についても触れることができた。

### (2) 埼玉国際学院短期大学教授 中村敏男先生によるご講義 「文学的文章の読み方」

埼玉国際短期大学教授の中村敏男先生をお招きし、教材「大造じいさんとガン」を扱い、「文学的文章の読み方」について、ご講義を頂いた。講義の中で、「学習課題の設定の仕方」についての重要性を改めて認識することができた。児童が興味を持って主体的に文章を読むためには、児童にとって必然性のある課題にしなくてはならないということ、職員全員で共通理解することができた。また、教材研究の仕方や授業展開など、中村先生の造詣が深い研究実践を聞くことができ、職員の指導力向上に繋がる良い機会となった。



## 4 今後の予定

### (1) 今年度

- ① 3学期中に、3本の研究授業の実施
- ② 児童への意識調査の実施・分析
- ③ 朝の時間を利用した、基礎的な知識を身に付けさせるための学習

### (2) 令和3年度

- ① 毎学期1本の研究授業の実施
- ② 朝会や学校行事を利用した全校での国語的な活動（詩の朗読会等）
- ③ 学習系統表の作成
- ④ 様々な研修会への参加